

中央タクシーが導入した「ジャパンタクシー」

「次世代タクシー」県内にも 「乗りやすく運転しやすい 乗客に好評」



県内のタクシー会社で、トヨタ自動車が発売した「次世代タクシー」が昨年秋に発売し、乗客からの評判が非常に高いと見られる。2020年東京五輪を見据えて投入さ

今月、東京五輪のロゴが側面に張られた深い藍色の1台を購入。宇都宮社長は「車内が広くて開放的。運転もしやすい」と評価し、2月から市内で走らせる予定だ。

ジャパンタクシーはトヨタにとつて22年ぶりの新型タクシー。ワゴン風の車体で、大きな荷物を収容でき、大柄な人も乗りやすい。電動スライドドアを備える後部は、車いすのまま乗降が可能。高齢化社会の進展で、車いすで乗車する人の増加が見込まれるだけに、中央タクシーは潜在的な需要は高いとみる。

同じく1台を今月導入した軽井沢観光（北佐久郡軽井沢町）は、すでに運行を始め、乗客からは「乗りやすい」と好評だ。視界が良く、小回りも利いて運転しやすいという。ただ、富裕層の多い別荘

導入を考えるタクシー会社は多いが、上級グレードは約350万円とあって「値段が高い」との反応も。しかし、ハイブリッドシステムの採用で燃費が良く、燃料費の節減が期待できるため、宇都宮社長は「今後も徐々に台数を増やしたい」としている。

「空港便」山梨21市町村に

中央タクシー エリア拡大

中央タクシー（長野市）は今月、顧客の自宅と成田空港や羽田空港を結ぶ「空港便」の運行エリアを山梨県内で拡大した。同県には2017年1月に進出。これまで甲府市を含む12市町を運行エリアとしてきたが、好調な利用を受け、11日付で甲州市、大月市など9

市町村をエリアに追加した。

空港便はジャンボタクシーを利用する乗り合いタクシー

で、同社は1999年に成田空港―長野間で運行を始め

た。鉄道で空港に向かう場合、荷物が大きいと駅での乗り換

えや移動に苦労するが、空港便は自宅まで送迎するため利

便性が高い。飛行機の時刻に合わせて運行のため、前泊せずに始発の飛行機に搭乗できることもあり好評という。

06年に新潟県でも運行を始め、その後、群馬、埼玉、山梨に運行エリアを順次拡大。

同社の空港便の車両は計100台余に増えた。料金は長野―成田が1万9000円〜1万39000円、山梨―成田は89000円〜1万9000円に設定。同社の17年9月期の売

上高約13億5千万円のうち、空港便事業は約10億円を占めるまでに成長した。

山梨に近い首都圏では需要が限られるため、埼玉県での運行は本年度で終了する。一方、山梨まで移動時間がかかる地域は需要が高く、同社は「山梨も群馬も、まだ運行エリアを増やせる」（同社総務部）とらむ。今後も車両などの態勢を整えばエリアを拡大する方針だ。